

街路樹

さあ、一年のスタートだ!!

新しい年にかかる教師や児童生徒の期待や不安の中でいよいよ一年が始まります。

新学期は教育環境の整備から、学習効果、心の教育、生徒指導など全てに大きく影響するのが、子どもをとりまく教育環境です。

《環境づくりのポイント》

机・椅子の整備

(落書きはないか、穴はあいてないか、くぎなどは出していないか、数量はあるか等)

時計の確認

(時計はあるか、狂いはないか、曲がってないか等)

カーテンの確認

(ランナーにきちんとつけてあるか、破れや汚れはないか、カーテンどめはあるか等)

その他

(室名札はついているか、清掃用具入れの整備はよいのか、教卓・扉・ドアにガタや狂いはないか)

《教室の掲示環境づくりのポイント》

配色の配慮

(教室前面は中間色の落ち着いた色でまとめ、スッキリ見やすいものでまとめる)

側面、背面の掲示は固定的なものは上部に、流動的なものは手の届く高さに掲示する。

文字の大きさは距離と比例し、使い分ける。

紋切り型の掲示でなく、学級の特徴や創意工夫に心がける。

子どもの活動が見える掲示に心がけましょう!

街路樹の編集方針

「街路樹」は主として授業力の向上のために、先生方に適切な情報等を提供し、日々の指導に生かしてもらうことをねらいとしております。市内はもとより県内外の最新の情報や動向、または薄れてきた教育の不易の部分や再認識していただくための情報などを提供することをねらいとしています。

授業の改善

～ 日々の授業を見直しましょう ～

魅力的な授業づくりには、導入・展開・まとめなどの各過程の設計をいかに適切に行うかがカギになります。
今回は、導入について考えてみましょう。

- A. 「導入」の成否が、子どもたちの知的活動のカギになる。「導入」は、子どもたちに学ぶ目的や意義を理解させることになり、一人一人の問題意識を高めることにつながります。「導入」に当たっては、子どもの実態を十分に把握した上で、子どもたちが本来持っている知的好奇心を呼び起こすために、魅力的な教材を提示するなど、「教材との感動的な出会い」を演出することが大切です。
「なに、それ」・・・興味
「おもしろいぞ!」・・・関心
「わあ!すばらしい」・・・感動
「どうして?」・・・疑問
「そんなはずはないよ」・・・認識のずれ
「ちがうよ!」・・・矛盾
- B. 「導入」に当たっては話だけでなく、さまざまな工夫をすることが大切です。
色チョークを使い分けた板書を活用する
画用紙などに書いたカードなどを活用する
短冊型の小黒板を利用する
視聴覚機器を使いスクリーンなどを利用する
- C. 「実物や事実、生活体験」を取り上げて学習のきっかけを持たせるなどの工夫をする。
実物を提示する
写真などで提示する
録画・録音したものを活用する
子どもが準備したものを活用する
その他、子どもの実態に合ったものを工夫し、ワンパターンにとらわれない教材提示を工夫し、「導入」をより効果的なものにすることが重要です。

研修の感想紹介

初任者研修

一般研修

誠意、真心、思いやりを持って謙虚な姿勢で先輩の先生方や子どもたちから学んでいきたいです。

「子どもの内面をしっかりとらえられる教師になって欲しい」との言葉が大変印象に残っており、子どもと真摯に向き合って、子どもの立場になって考え、指導できる教師にならなければいけないと強く思った。

教師は誠意、思いやり、誠実が非常に大事だということが分かりました。

大変勉強になった一日だった。どの話もすぐに現場で役立つものばかりであり、話に引き込まれて、時間が経つのがあっという間であった。

「子どもたちから学ぶという姿勢が大切である」という話をいただき、上から教えるばかりだった自分の今までの行動を深く反省させられた。周りの人たちに助けられていることに感謝する気持ち、それに応えようとする情熱が何より大事なのだと思ふことができた。

継続常勤講師研修講座

教師は子どもとのチームワーク、子ども同士のチームワーク、そして教師間のチームワークが大事であり、コミュニケーションが命なのだ改めて実感しました。

望ましい学級経営に必要な手段を知ることができた。子どもが「学校に行きたいな」と思われる学級づくりのために努力していきたい。

年度当初、子どもたちとの新学期が始まる前にこういった講義を受け、教員としての自覚を高めることで、より一層子どもたちのための教育に従事することができる。そのため心構えがしっかりとできると感じました。

今回、このような研修をさせていただき、更に子どものため一日一日、一時一時、力を注いでいきたいと思いました。

今の自分が忘れていた、欠けていたものを見つめ直すことができた。今回の研修を生かしていきたいと思います。